

「モビリティDX戦略」2025年のアップデート

「モビリティDX戦略」2025年のアップデート (2024年5月24日公表版をアップデート)

<戦略の目標 (2030年及び2035年) >

● SDVのグローバル販売台数における「日系シェア3割」の実現

※ SDV (Software Defined Vehicle) : クラウドとの通信により、自動車の機能を継続的にアップデートすることで、運転機能の高度化など従来車にない新たな価値が実現可能な次世代の自動車

<アップデートの背景>

● SDVの重要技術を巡る開発競争の更なる激化

- ✓ 最先端のAIの開発・実装等により自動運転機能が大きく向上。既にグローバルに自動運転サービスの展開を始めたプレイヤーも出現。
- ✓ SDV化による自動車の新たな機能・価値が社会で享受され始めており、こうした流れは、SDVの開発スピードにも直結。

● 地政学リスクの高まり

- ✓ SDV化の進展に伴い車両と外部が繋がる中、半導体、通信機器等のサプライチェーン (SC) やセキュリティへの懸念が今後一層高まるおそれ。

<目標の実現に向けたアップデート・取組強化のポイント>

①新たなAI技術を活用した自動運転技術の開発・実証、②SDV開発に対応した産業構造の構築、③地政学上のリスクに対応したSCの強靱化

SDV領域	モビリティサービス領域	データ利活用領域
<ul style="list-style-type: none">✓ 自動運転AIモデル開発促進✓ シミュレーションの認証・認可への活用検討、E2E安全性評価手法構築✓ サイバーセキュリティ対応強化(SBOM活用等)	<ul style="list-style-type: none">✓ 自動運転タクシーの地方展開含む標準モデル、オープンデータセット構築✓ 政府調達を活用など、自動運転の早期社会実装に向けた取組	<ul style="list-style-type: none">✓ SDV関連部品等のグローバルSCの把握・強靱化のためのデータ連携の推進✓ ウラノスエコシステムでのユースケース拡張(半導体データプラットフォーム、有事のSC情報連携)

領域横断

- ✓ SDV関連システムの国内生産基盤強化
- ✓ 国内SDVエコシステムの構築に向けたSDV開発プロセス標準化・デジタル化、サービス/アプリケーションプラットフォーム構築
- ✓ モビリティDXプラットフォーム等によるソフトウェア人材不足の解消・企業間連携の推進